

アスファルト混合物配合設計報告書

混合物：再生密粒度アスコン(20)(ECOフォーム®)

2025年 2月

鳥取アスコン 株式会社

アスファルト混合物配合設計総括表

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォームト)

試験者 大西 康夫

1. 使用材料の種類及び産地

材料の種類	製造会社名	産地	材質
碎石5号	坂田碎石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
碎石6号	坂田碎石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
再生骨材	鳥取アスコン株式会社	鳥取県鳥取市古海	再生骨材
砕砂	坂田碎石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
粗砂	住若海運株式会社	佐賀県唐津市	天然砂
細砂	有限会社仁徳砂利	鳥取市伏野	天然砂
StAs(60-80)	ENEOS株式会社	岡山県倉敷市水島	STAs60-80
RJ-T	竹中産業株式会社	東京都千代田区鍛冶町	大西 康夫

2. 使用骨材の配合割合

材料	碎石5号	碎石6号	再生骨材	砕砂	粗砂	細砂						計
配合割合%	12.5	3.5	70.0	7.0	3.0	4.0						100.0

3. 合成粒度

ふるい目	53mm	37.5	31.5	26.5	19	13.2	9.5	4.75	2.36	1.18	600μm	300	150	75
通過質量百分率%				100.0	99.9	88.8		61.0	44.3		28.7	18.9	9.5	7.0
粒度範囲	上限			100	100	90		65	50		30	21	16	8
	下限			100	95	75		45	35		18	10	6	4

4. 設計アスファルト量の決定

試験項目	最適AS量 (%)	密度 (g/cm ³)	理論密度 (g/cm ³)	空隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)	フロー ($\frac{1}{100}$ cm)	残留安定度 (%)
試験値	5.4	2.367	2.466	4.0	75.5	9.51	34	90.6
基準値	上限	7.0	—	6	85	—	40	—
	下限	5.0	—	3	70	4.90以上	20	75.0以上

※ マーシャル試験の結果はグラフより求めた値である

骨材試験成績表

目 的 配 合 設 計

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(ECOフォームト)

試験者 大西 康夫

ふるい分け試験

	ふるい目の開き	砕石5号	砕石6号	再生骨材	砕砂	粗砂	細砂			
通過質量百分率%	53 mm									
	37.5									
	31.5									
	26.5	100.0								
	19	98.8	100.0							
	13.2	10.2	98.9	100.0		100.0				
	9.5									
	4.75		5.2	66.8	100.0	99.4				
	2.36			44.5	92.2	88.1	100.0			
	1.18									
	600 μm			30.2	35.5	35.2	99.0			
	300			20.3	20.2	12.3	71.6			
	150			12.0	11.1	2.8	4.1			
	75			9.1	9.1	1.0	1.1			

性状試験

試験項目		砕石5号	砕石6号	再生骨材	砕砂	粗砂	細砂			
密度	表 乾	2.688	2.682	—	2.646	2.592	2.589			
	か さ	2.671	2.662	—	2.602	2.556	2.545			
	見 掛	2.715	2.717	—	2.722	2.651	2.661			
吸水率 / 水分量 %		0.61	0.76	—	1.70	1.41	1.72			
すりへり減量 %		—	11.1	—	—	—	—			
安定性 %		0.6	0.9	—	1.5	5.3	1.3			
微粒分量試験 %		—	—	1.7	—	—	—			
軟石含有量 %		0.3	0.6	—	—	—	—			
扁平細長石片 %		1.0	1.0	—	—	—	—			
単位容積質量		1.558	1.554	—	1.742	1.654	1.547			
粘土塊量 %		0.01	0.03	—	—	—	—			
最大密度		—	—	2.491	—	—	—			
旧 A s 含有量 %		—	—	4.50	—	—	—			
旧 A s 針入度		—	—	22	—	—	—			
圧裂係数		—	—	1.34	—	—	—			

骨材粒度設計（修正後）

目的配合設計（室內）

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC07フォームト[®])

試 験 者 大西 康夫

3. 使用予定骨材の合成粒度 修正後

骨 材		碎石5 号	碎石6 号	再生骨材	碎砂	粗砂	細砂		
配 合 率 A %		12.5	3.5	70.0	7.0	3.0	4.0		
通 過 質 量 百 分 率 B %	53 mm								
	37.5								
	31.5								
	26.5	100.0							
	19	98.8	100.0						
	13.2	10.2	98.9	100.0		100.0			
	9.5								
	4.75		5.2	66.8	100.0	99.4			
	2.36			44.5	92.2	88.1	100.0		
	1.18								
	600 μm			30.2	35.5	35.2	99.0		
	300			20.3	20.2	12.3	71.6		
	150			12.0	11.1	2.8	4.1		
75			9.1	9.1	1.0	1.1			

各骨材のふり目の大きさ別配合率 (A) × (B)								合 成	目 標
53 mm									
37.5									
31.5									
26.5	12.5							100.0	100.0
19	12.4	3.5						99.9	97.5
13.2	1.3	3.5	70.0		3.0			88.8	82.5
9.5									
4.75		0.2	46.8	7.0	3.0			61.0	55.0
2.36			31.2	6.5	2.6	4.0		44.3	42.5
1.18									
600 μm			21.1	2.5	1.1	4.0		28.7	24.0
300			14.2	1.4	0.4	2.9		18.9	15.5
150			8.4	0.8	0.1	0.2		9.5	11.0
75			6.4	0.6	0.0	0.0		7.0	6.0

4. 骨材の密度による配合率の補正

[illegible]

骨材の粒径加積曲線図

目的 配合設計（室内）

試験年月日 2025年 2月14日

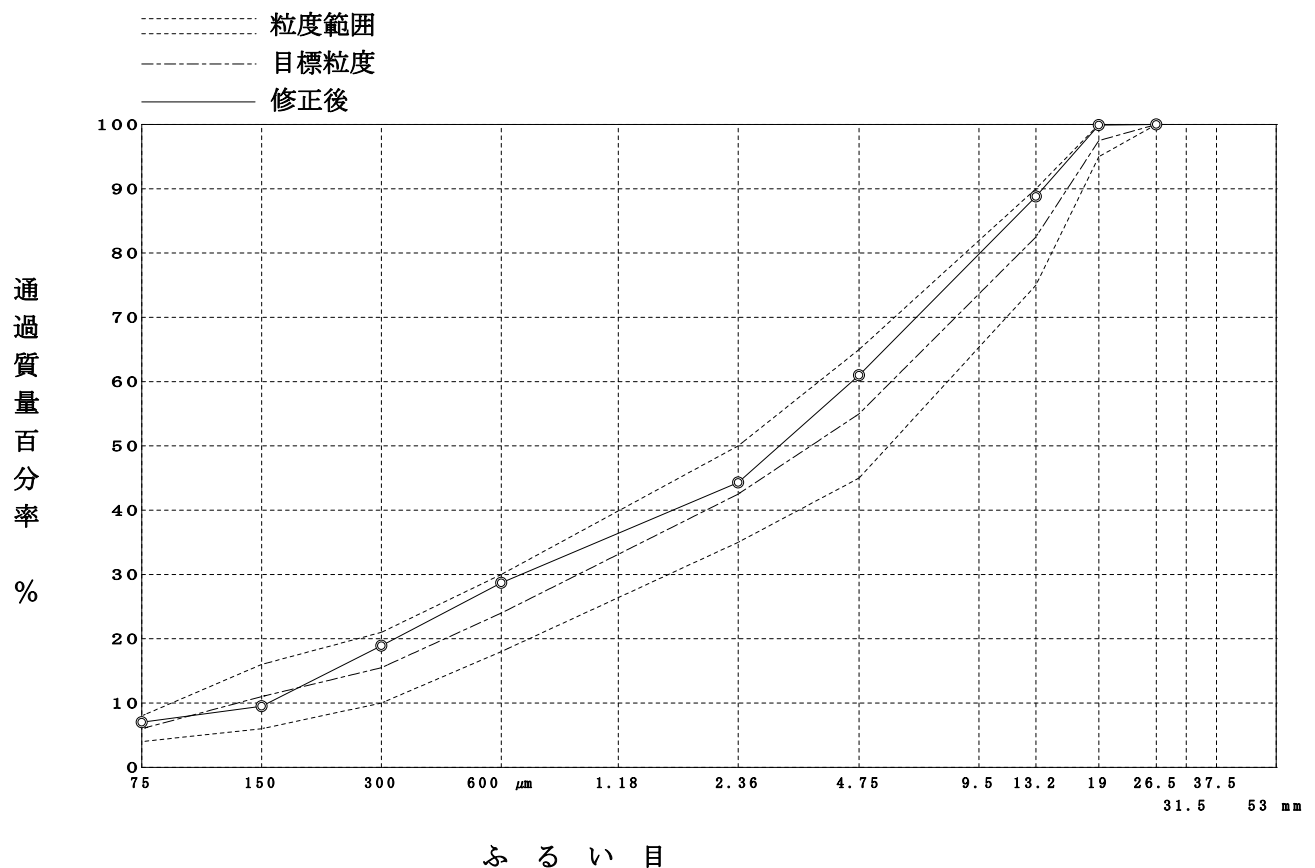
混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォーマット)

試験者 大西 康夫

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5	100.0	100.0	100.0	100
19	99.8	99.9	97.5	95 ~ 100
13.2	82.3	88.8	82.5	75 ~ 90
9.5				
4.75	54.1	61.0	55.0	45 ~ 65
2.36	45.8	44.3	42.5	35 ~ 50
1.18				
600 μm	29.2	28.7	24.0	18 ~ 30
300	18.3	18.9	15.5	10 ~ 21
150	4.7	9.5	11.0	6 ~ 16
75	3.2	7.0	6.0	4 ~ 8

6. 粒径加積曲線図



設計圧裂係数への調整（添加剤量）

目 的 配 合 設 計

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォーマット)

試 験 者 大西 康夫

試験項目	材料名	再生骨材				規格値
通過質量百分率 %	53 mm					
	37.5					
	31.5					
	26.5					
	19					
	13.2	100.0				
	9.5					
	4.75	66.8				
	2.36	44.5				
	1.18					
	600 μm	30.2				
	300	20.3				
	150	12.0				
	75	9.1				
旧アスファルト含有率 %		4.50				3.8 以上
圧裂係数 MPa/mm		1.34				1.70 以下
微粒分量試験による損失量 %		1.7				5 以下
最大密度		2.491				

再生添加剤の性状

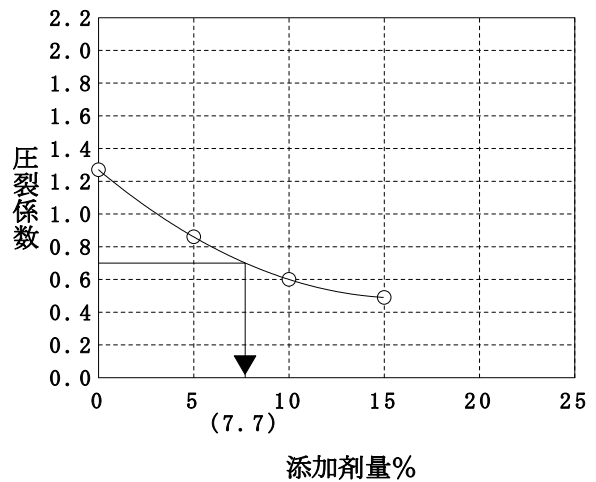
項 目	試 験 値	標準的性状
動 粘 度 (60℃) mm ² /s	88.01	80~1000
引 火 点 ℃	306	250以上
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	1.09	2以下
薄 膜 加 熱 質 量 変 化 率 %	-0.25	±3%以内
密 度 (15℃) g/cm ³	0.941	

<添加剤量と圧裂係数の関係>

添加剤量	0.0	5.0	10.0	15.0
圧裂係数	1.27	0.86	0.60	0.49

設計圧裂係数	0.70	(規格値 0.60 ~ 0.80)
--------	------	-------------------

設計圧裂係数への調整



<設計圧裂係数への調整結果>

設計添加剤量	7.7
設計添加剤量 (対混合物)	0.25

理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(ECOフォームト)

試験者 大西 康夫

骨 材 の 種 類	A 骨 材 の み					B (旧アスファルト含む)		
碎石5 号	1 2 . 5					1 2 . 5 0		
碎石6 号	3 . 5					3 . 5 0		
再生骨材	7 0 . 0					7 3 . 3 0		
砕砂	7 . 0					7 . 0 0		
粗砂	3 . 0					3 . 0 0		
細砂	4 . 0					4 . 0 0		
計	1 0 0 . 0					1 0 3 . 3 0		
設 計 針 入 度 1 / 1 0 m m								
旧 ア ス フ ァ ル ト 量 (外割%)						3 . 3 0		
再 生 用 添 加 剤 量 (対アスファルト量) %						7 . 7 0		
再 生 用 添 加 剤 量 (対 再 生 混 合 物) (外割%)						0 . 2 5		
再生アスファルト量 (%)	4 . 5	5 . 0	5 . 5	6 . 0	6 . 5			5 . 4
再生アスファルト量 (外割%)	4 . 7 1	5 . 2 6	5 . 8 2	6 . 3 8	6 . 9 5			5 . 7 1
旧 アスファルト量 (外割%)	3 . 3 0	3 . 3 0	3 . 3 0	3 . 3 0	3 . 3 0			3 . 3 0
再 生 用 添 加 剤 量 (外割%)	0 . 2 5	0 . 2 5	0 . 2 5	0 . 2 5	0 . 2 5			0 . 2 5
新アスファルト量 (外割%)	1 . 1 6	1 . 7 1	2 . 2 7	2 . 8 3	3 . 4 0			2 . 1 6

理論最大密度計算表

目的 配合設計

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォームト)

試験者 大西 康夫

①	②	③			④	⑤
骨材の種類	配合率(%)	骨材の密度(g/cm ³)			計算に用いる密度	②/④
		表乾	かさ	見掛		
碎石5号	12.50	2.688	2.671	2.715	2.715	4.604
碎石6号	3.50	2.682	2.662	2.717	2.717	1.288
再生骨材	73.30				2.491	29.426
砕砂	7.00	2.646	2.602	2.722	2.722	2.572
粗砂	3.00	2.592	2.556	2.651	2.651	1.132
細砂	4.00	2.589	2.545	2.661	2.661	1.503
RJ-T	0.25				0.941	0.266
Σ②=	103.55				Σ⑤=	40.791

⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
アスファルト量(%)	アスファルトの密度	⑥/⑦	Σ⑤	⑧+⑨	理論最大密度(Σ②+⑥)/⑩
1.16	1.037	1.119	40.791	41.910	2.498
1.71		1.649	40.791	42.440	2.480
2.27		2.189	40.791	42.980	2.462
2.83		2.729	40.791	43.520	2.444
3.40		3.279	40.791	44.070	2.427
2.16		2.083	40.791	42.874	2.466

マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験

目 的 配 合 設 計 (室内)

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(ECOフォームト)

試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80) アスファルトの密度(A) 1.037 アスファルトの温度 160 ℃ 骨材の温度 200 ℃

突 固 め 温 度 140 ℃ 突 固 め 回 数 50 回 力計の係数(B) 0.1187

供試体条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	安定フロー (kN/m)
		アスファルト量%	供試体寸法					空中質量 (g)	水中質量 (g)	表乾質量 (g)	容積 (cm³)	密 度		アスファルト積 (%)	空隙率 (%)	骨材間隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度		フロー値 1/100 cm	
			厚さ (cm)									かさ (g/cm³)	理論 (g/cm³)					力計の読み	安定度 (kN)		
			1	2	3	4	平均														
標準	1	4.5					6.39	1221.5	703.1	1222.7	519.6	2.351						73	8.67	27	
	2						6.32	1219.9	698.8	1221.0	522.2	2.336						70	8.31	30	
	3						6.43	1219.7	703.5	1220.8	517.3	2.358						71	8.43	30	
	平均											2.348	2.498	10.2	6.0	16.2	63.0		8.47	29	2921
標準	4	5.0					6.34	1223.4	705.6	1224.0	518.4	2.360						79	9.38	34	
	5						6.45	1223.8	706.1	1224.4	518.3	2.361						79	9.38	28	
	6						6.34	1225.3	705.2	1225.9	520.7	2.353						80	9.50	31	
	平均											2.358	2.480	11.4	4.9	16.3	69.9		9.42	31	3039
標準	7	5.5					6.43	1234.9	714.6	1235.2	520.6	2.372						83	9.85	34	
	8						6.28	1233.4	715.2	1233.7	518.5	2.379						75	8.90	36	
	9						6.40	1234.4	712.1	1234.7	522.6	2.362						79	9.38	33	
	平均											2.371	2.462	12.6	3.7	16.3	77.3		9.38	34	2759
標準	10	6.0					6.35	1236.2	716.3	1236.4	520.1	2.377						74	8.78	40	
	11						6.38	1237.2	716.8	1237.5	520.7	2.376						68	8.07	41	
	12						6.34	1239.8	717.7	1239.9	522.2	2.374						72	8.55	36	
	平均											2.376	2.444	13.7	2.8	16.5	83.0		8.47	39	2172
標準	13	6.5					6.26	1245.8	718.7	1245.9	527.2	2.363						52	6.17	41	
	14						6.25	1245.1	722.9	1245.4	522.5	2.383						56	6.65	47	
	15						6.29	1245.2	719.1	1244.9	525.8	2.368						55	6.53	46	
	平均											2.371	2.427	14.9	2.3	17.2	86.6		6.45	45	1433

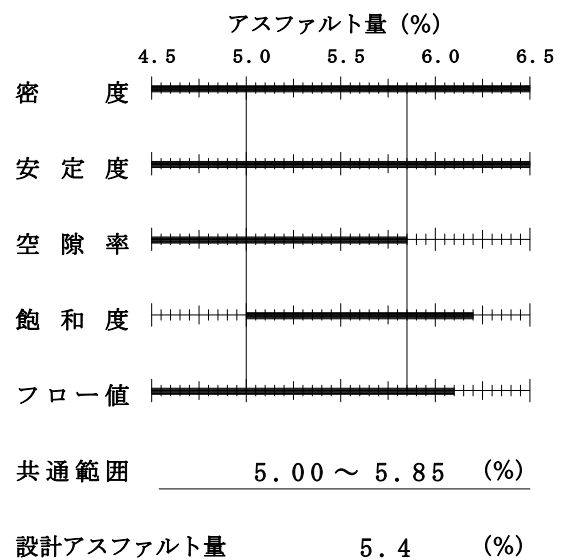
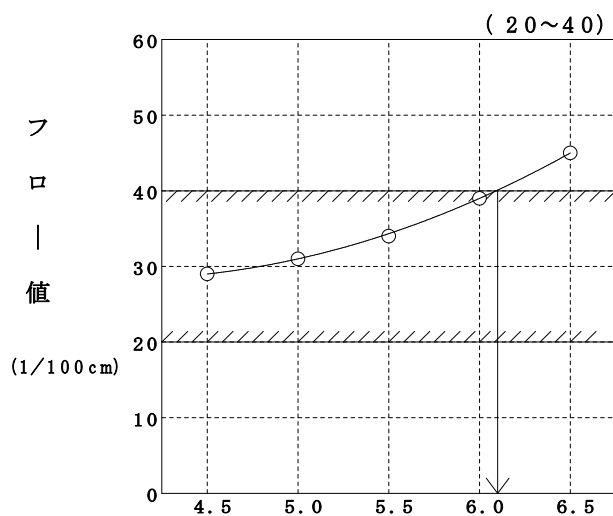
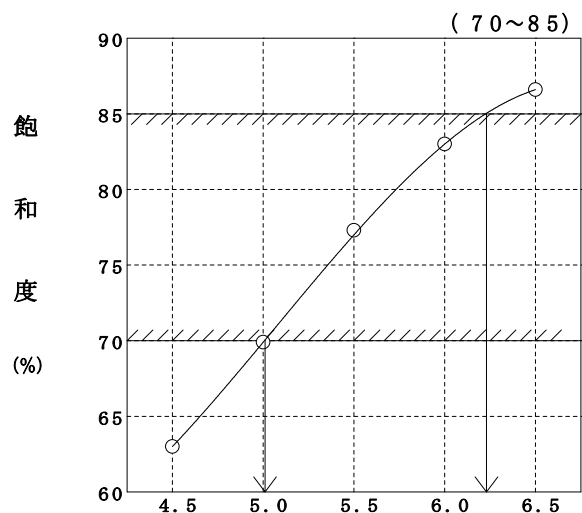
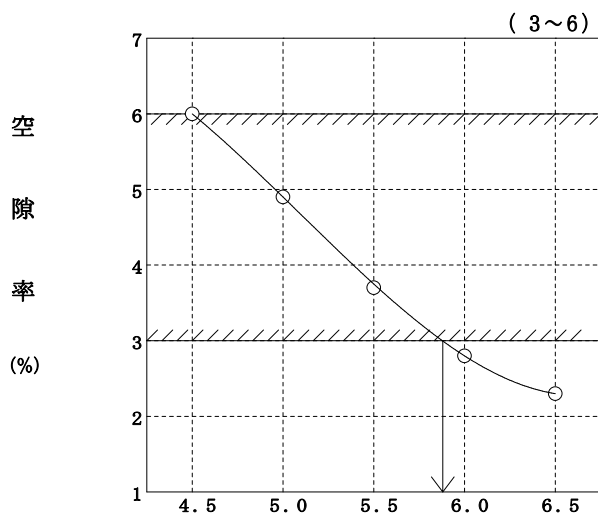
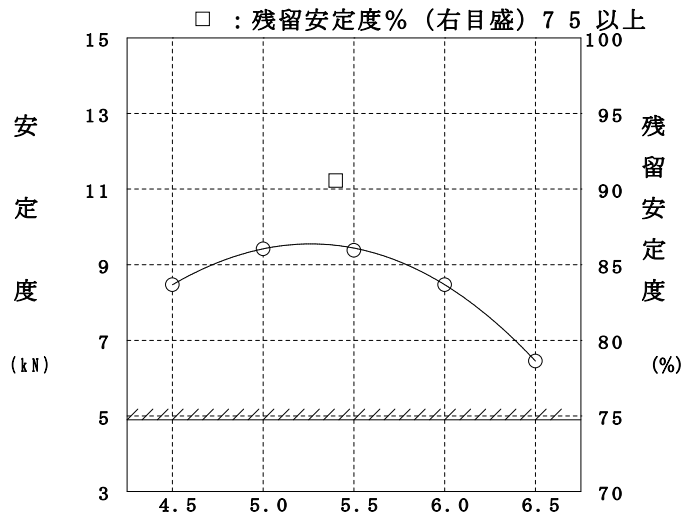
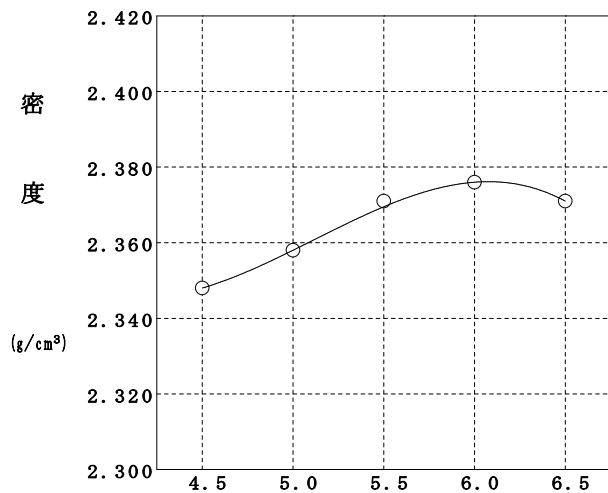
設計アスファルト量の決定

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォーマット)

試験者 大西 康夫



殘留安定度試験

目的配合設計（殘留）

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォームト)

試 験 者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80) アスファルトの密度(A) 1.037 アスファルトの温度 160 ℃ 骨材の温度 210 ℃

突 固 め 温 度 140 ℃ 突 固 め 回 数 50 回 力 計 の 係 数 (B) 0.1187

[illegible]

ホットビン粒度設計（修正後）

目 的 配 合 設 計 (現 場)

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC07フォームト)

試 験 者 大西 康夫

3. 使用予定骨材の合成粒度 修正後

骨 材		1 ビン	3 ビン	4 ビン	再生骨材	回収ダスト			
配 合 率 A %		14.0	3.5	12.0	70.0	0.5			
通 過 質 量 百 分 率 B %	53 mm								
	37.5								
	31.5								
	26.5			100.0					
	19		100.0	99.1					
	13.2		99.1	10.3	100.0				
	9.5								
	4.75	100.0	0.3		66.8				
	2.36	96.0			44.5				
	1.18								
	600 μm	48.6			30.2	100.0			
	300	30.6			20.3	98.7			
	150	3.8			12.0	87.1			
75	1.5			9.1	71.6				

各骨材のふり目の大きさ別配合率 (A) × (B)								合 成	設 計
53 mm									
37.5									
31.5									
26.5			12.0					100.0	100.0
19		3.5	11.9					99.9	99.9
13.2		3.5	1.2	70.0				89.2	88.8
9.5									
4.75	14.0	0.0		46.8				61.3	61.0
2.36	13.4			31.2				45.1	44.3
1.18									
600 μm	6.8			21.1	0.5			28.4	28.7
300	4.3			14.2	0.5			19.0	18.9
150	0.5			8.4	0.4			9.3	9.5
75	0.2			6.4	0.4			7.0	7.0

4. 骨材の密度による配合率の補正

[illegible]

ホットビンの粒径加積曲線図

目的 配合設計（現場）

試験年月日 2025年 2月14日

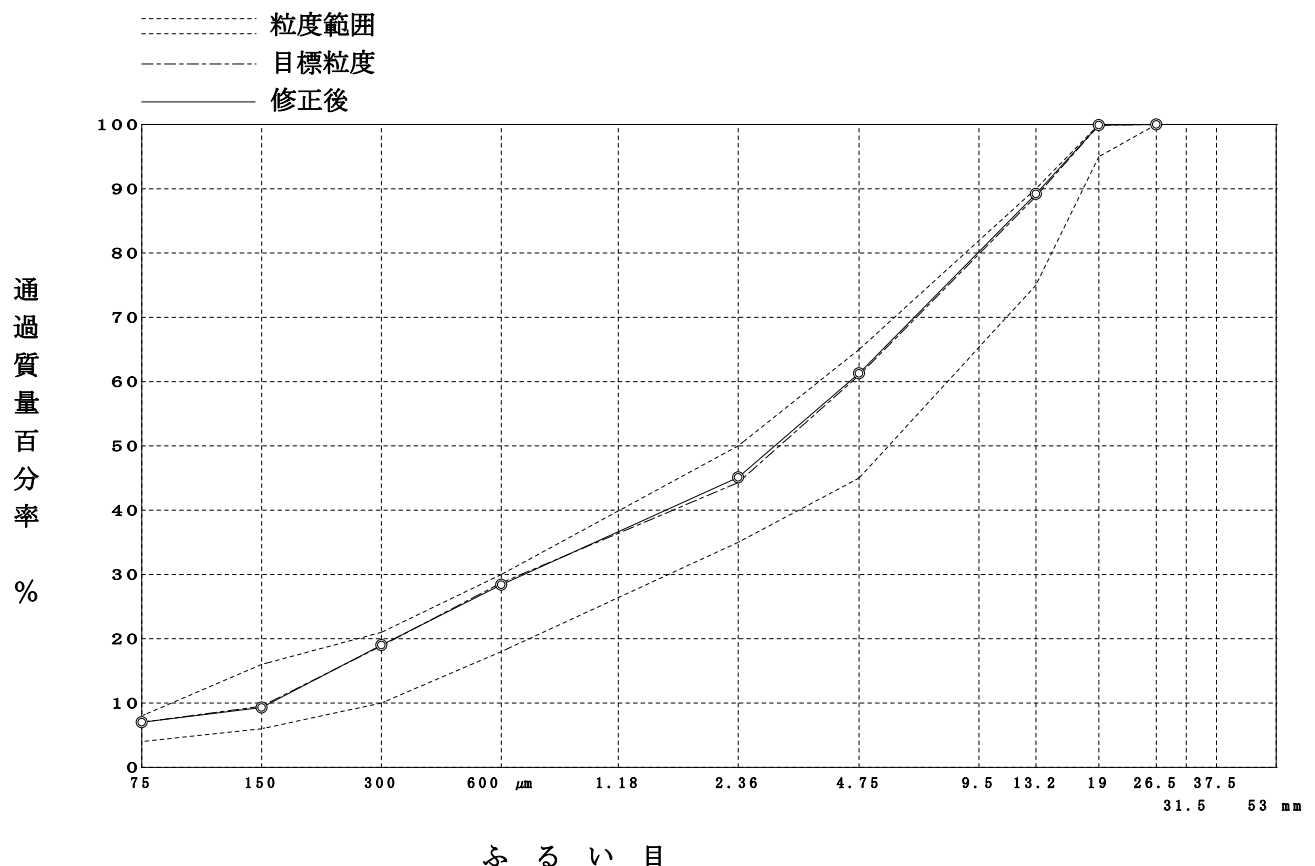
混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォーマット)

試験者 大西 康夫

5. 合成粒度

ふるい目	合 成 粒 度		目 標 粒 度	粒 度 範 囲
	作 図 法	修 正 後		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5	100.0	100.0	100.0	100
19	99.9	99.9	99.9	95 ~ 100
13.2	88.1	89.2	88.8	75 ~ 90
9.5				
4.75	60.4	61.3	61.0	45 ~ 65
2.36	41.6	45.1	44.3	35 ~ 50
1.18				
600 μm	26.9	28.4	28.7	18 ~ 30
300	20.5	19.0	18.9	10 ~ 21
150	11.1	9.3	9.5	6 ~ 16
75	8.5	7.0	7.0	4 ~ 8

6. 粒径加積曲線図



理 論 最 大 密 度 計 算 表

目的配合設計

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(ECOフォームト[®])

試 験 者 大西 康夫

[illegible]

理 論 最 大 密 度 計 算 表

目的配合設計

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC07フォームト)

試 験 者 大西 康夫

①	②	③			④	⑤
骨 材 の 種 類	配合率(%)	骨 材 の 密 度 (g/cm ³)			計算に用いる密度	②／④
		表 乾	か さ	見 掛		
碎石5号	12.50	2.688	2.671	2.715	2.715	4.604
碎石6号	3.50	2.682	2.662	2.717	2.717	1.288
再生骨材	73.30				2.491	29.426
砕砂	7.00	2.646	2.602	2.722	2.722	2.572
粗砂	3.00	2.592	2.556	2.651	2.651	1.132
細砂	4.00	2.589	2.545	2.661	2.661	1.503
RJ-T	0.25				0.941	0.266
Σ②＝	103.55				Σ⑤＝	40.791

[illegible]

マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験

目 的 配 合 設 計 (現 場)

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC07フォームト[®])

試 験 者 大西 康夫

アスファルトの種類	再生アスファルト(60-80)	アスファルトの密度(A)	1.037	アスファルトの温度	160	℃	骨材の温度	200	℃
-----------	-----------------	--------------	-------	-----------	-----	---	-------	-----	---

突 固 め 温 度	140	℃	突 固 め 回 数	50	回	力計の係数 (B)	0.1187
-----------	-----	---	-----------	----	---	-----------	--------

[illegible]

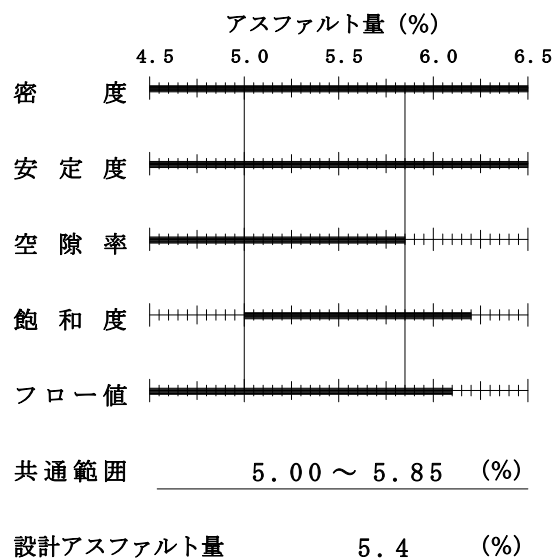
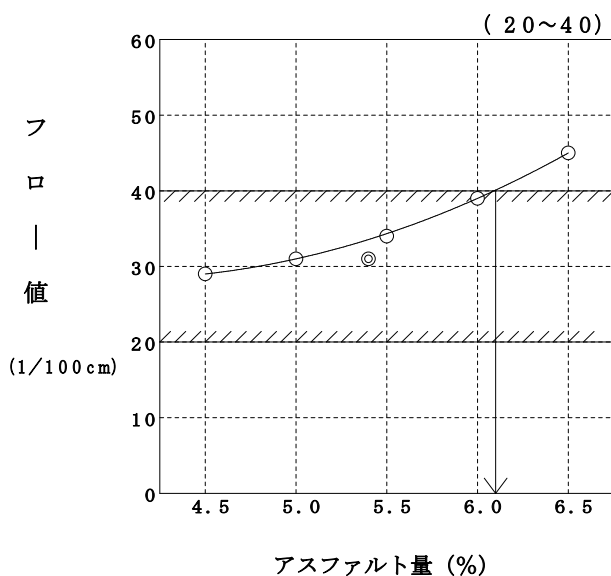
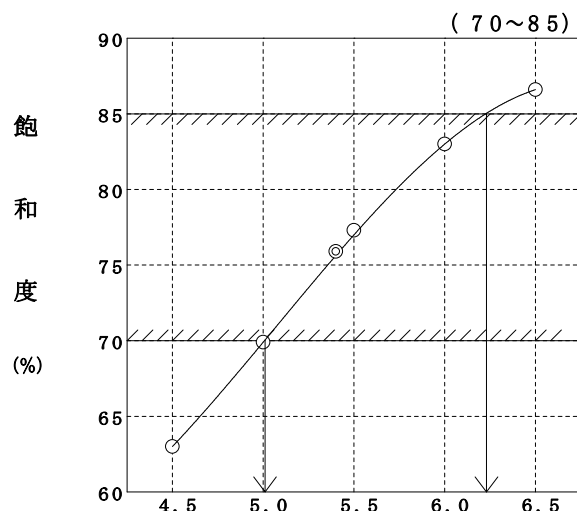
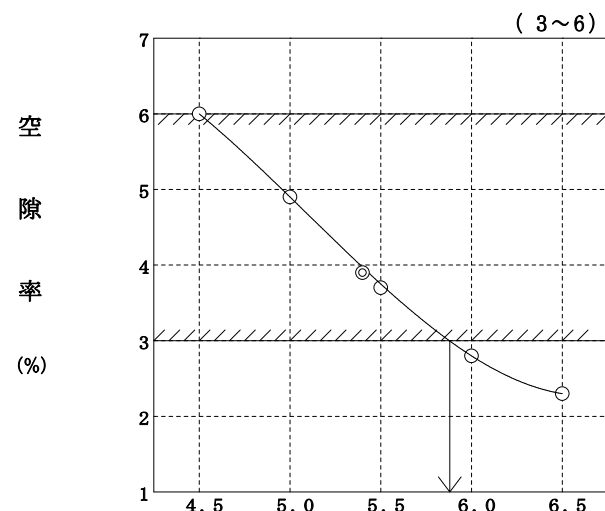
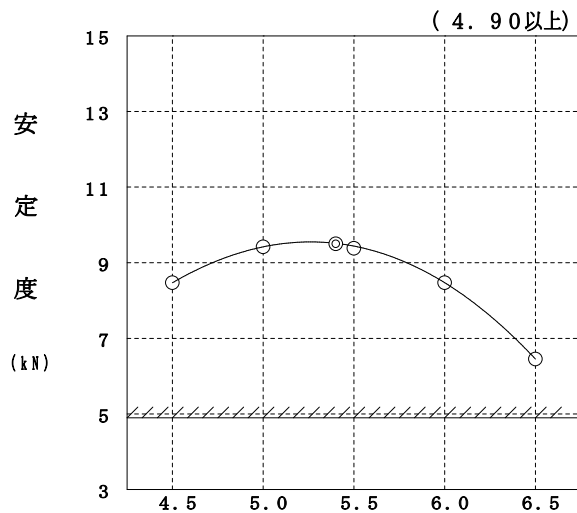
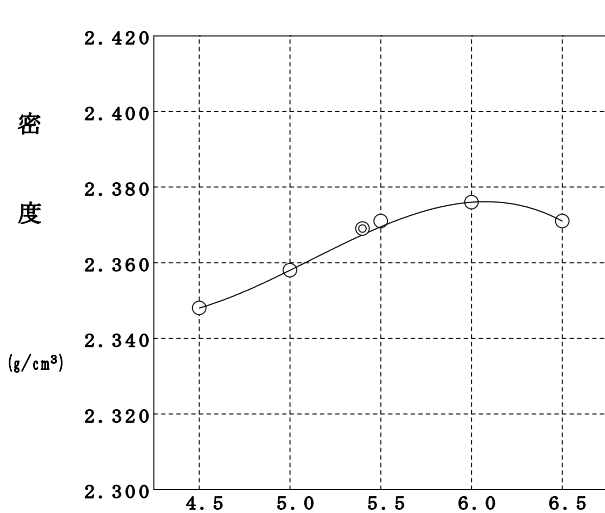
マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験

目 的 配 合 設 計 (現 場)

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォーマット)

試験者 大西 康夫



現場 マーシャル安定度試験（中温化）

目 的 配 合 設 計 （現場 中温化）

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン（20）（EC0フォーマット）

試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト（60-80）

アスファルトの密度 (A) 1.037 アスファルトの温度 160℃

骨材の温度 200℃

突固め温度 —℃

突固め回数 50回

力計の係数 (B) 0.1187kN

試験条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
		突固め温度 (℃)	供試体平均厚 (cm)	空中質量 (g)	水中質量 (g)	表乾質量 (g)	容積 (cc)	密度 (g/cm³)	理論 (g/cm³)	ア容スファルト積 (%)	空隙率 (%)	骨材間隙率 (%)	飽和度 (%)	力計の読み	安定度 (kN)	フロ―値 1/100 cm	安定度／フロ― (kN/m)
							⑤-④	③/⑥		①×⑦ (A)		⑨+⑩	⑩/⑪×100		(B) × ⑬		
標準	1		6.30	1231.3	712.6	1231.9	519.3	2.371						84	9.97	30	
	2	140	6.32	1232.3	718.2	1232.9	514.7	2.394						79	9.38	33	
	3		6.28	1232.3	715.2	1233.0	517.8	2.380						82	9.73	34	
	As量	5.4															
	平均							2.382	2.466	12.4	3.4	15.8	78.5		9.69	32	3028
標準	4		6.44	1233.2	717.5	1233.9	516.4	2.388						81	9.61	29	
	5	130	6.25	1232.0	711.7	1232.6	520.9	2.365						77	9.14	32	
	6		6.27	1232.6	715.2	1233.3	518.1	2.379						84	9.97	32	
	As量	5.4															
	平均							2.377	2.466	12.4	3.6	16.0	77.5		9.57	31	3087
標準	7		6.34	1231.5	713.6	1232.1	518.5	2.375						81	9.61	32	
	8	120	6.32	1231.5	711.1	1232.0	520.9	2.364						76	9.02	30	
	9		6.35	1232.2	713.1	1232.8	519.7	2.371						83	9.85	30	
	As量	5.4															
	平均							2.370	2.466	12.3	3.9	16.2	75.9		9.49	31	3061
標準	10		6.32	1232.1	711.3	1232.7	521.4	2.363						75	8.90	31	
	11	110	6.33	1232.0	707.2	1232.5	525.3	2.345						83	9.85	31	
	12		6.39	1230.9	710.9	1231.6	520.7	2.364						79	9.38	32	
	As量	5.4															
	平均							2.357	2.466	12.3	4.4	16.7	73.7		9.38	31	3026
	平均																

$$\textcircled{10} = (1 - \textcircled{7} / \textcircled{8}) \times 100$$

現場 混合物の突固め温度下限値の確認

目 的 配 合 設 計 (現場 中温化)

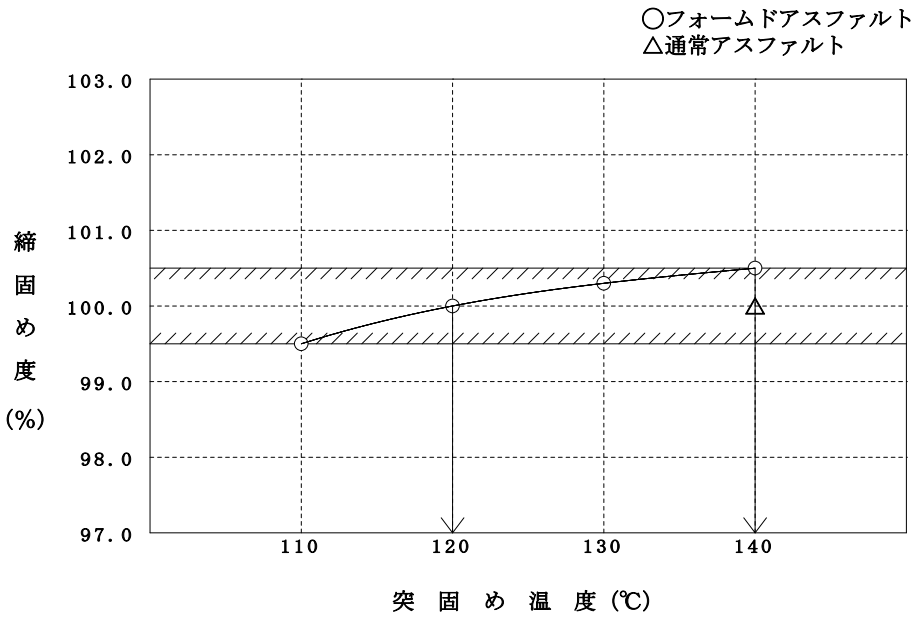
試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォームト)

試 験 者 大西 康夫

フォームドアスファルト使用時の混合物にて、突固め温度を変化させた供試体密度を測定し、
締固め度から突固め温度下限値を決定するとともに、混合物性状確認を行う。
締固め度は、フォームドアスファルト未使用の通常アスファルト時に決定した突固め温度で
作製した供試体の密度を基準密度とする。

項目				理論密度 (g/cm³)	密度 (g/cm³)	空隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)	フロー値 (1/100cm)	締固め度 (%)
中温化	突固め温度	As量	規格	—	—	3～6	70～85	4.90以上	20～40	—
未使用	140℃	5.4%		2.466	2.369	3.9	75.9	9.50	31	100.0
使用	140℃			2.466	2.382	3.4	78.5	9.69	32	100.5
使用	130℃			2.466	2.377	3.6	77.5	9.57	31	100.3
使用	120℃			2.466	2.370	3.9	75.9	9.49	31	100.0
使用	110℃			2.466	2.357	4.4	73.7	9.38	31	99.5



グラフより、
締固め度100.0%が得られる突固め温度は120℃となった。
締固め度99.5%～100.5%が得られる突固め温度は110℃～140℃となった。

現場 突固め下限温度でのマーシャル安定度試験

目 的 配 合 設 計 (現場 突固め下限温度)

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォーマット)

試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80)

アスファルトの密度 (A) 1.037

アスファルトの温度 160℃

骨材の温度 190℃

突固め温度 120℃

突固め回数 50回

力計の係数 (B) 0.1187kN

試験 条件	供 試 体 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
		ア ス フ ア ル ト 量 (%)	供 試 体 平 均 厚 (cm)	空 中 質 量 (g)	水 中 質 量 (g)	表 乾 質 量 (g)	容 積 (cc)	密 か さ (g/cm³)	度 理 論 (g/cm³)	ア 容 ス フ ア ル ト 積 (%)	空 隙 率 (%)	骨 材 間 隙 率 (%)	飽 和 度 (%)	安 定 度 力 計 の 読 み 取 り (kN)	安 定 度 (kN)	フ ロ ー 値 1/100 cm	安 定 度 フ ロ ー 値 (kN/m)
							⑤-④	③/⑥		①×⑦ (A)		⑨+⑩	⑪/⑫×100		(B)×⑬		
標準	1	5.4	6.25	1230.5	714.6	1231.2	516.6	2.382						81	9.61	33	
	2		6.27	1233.5	711.0	1234.2	523.2	2.358						78	9.26	29	
	3		6.34	1232.4	712.7	1232.9	520.2	2.369						82	9.73	30	
	平均							2.370	2.466	12.3	3.9	16.2	75.9		9.53	31	3074
	平均																
	平均																
	平均																
	平均																

⑩ = (1 - ⑦/⑧) × 100

現場配合の決定

目的 配合設計

試験年月日 2025年 2月14日

混合物の種類 再生密粒度アスコン(20)(EC0フォーマット)

試験者 大西 康夫

1バッチ 1000 kg

	骨材配合比(%)	外割配合比(%)	内割配合比(%)	1バッチ質量(kg)	骨材累加質量(kg)
1 ビン	14.0	14.00	13.25	133	133
3 ビン	3.5	3.50	3.31	33	166
4 ビン	12.0	12.00	11.35	114	280
回収ダスト	0.5	0.50	0.47	5	5
再生骨材	70.0	73.30	69.34	695	695
旧アスファルト		(3.30)	(3.12)		
再生用添加剤		0.25	0.24		
新アスファルト		2.16	2.04	20	20
合計	100.0	105.71	100.00	1000	1000

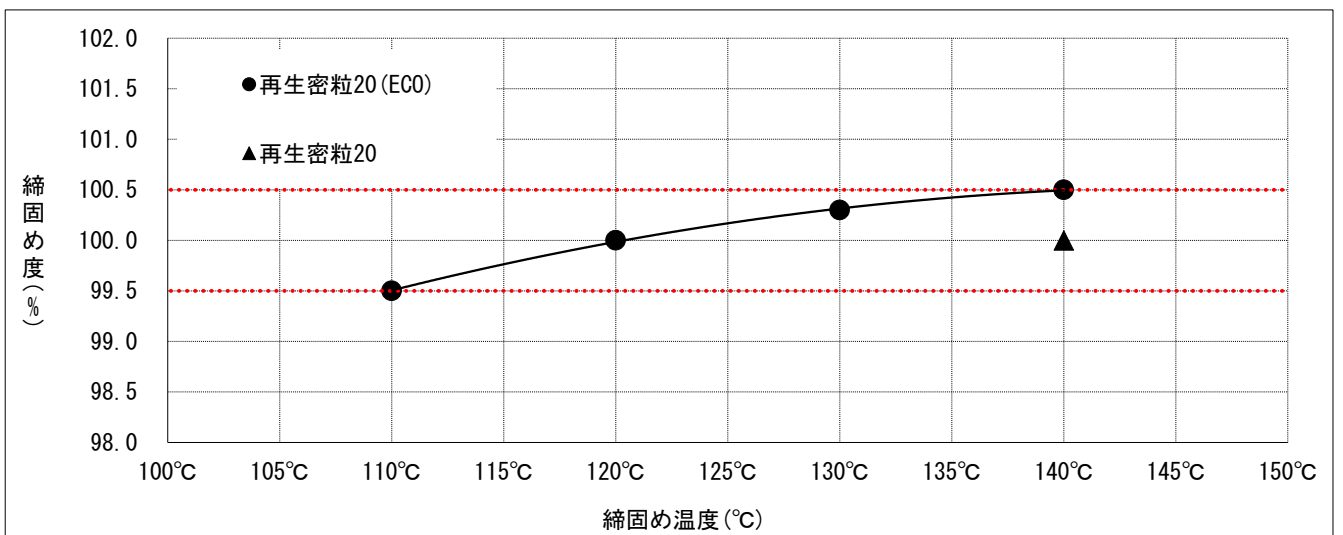
※添加剤はドライヤ内添加のため
再生材の計量値に含まれます。

- 混合温度・・・・・・・・混合温度は185℃を超えない範囲でアスファルトの動粘度
160～200cSt（セイボルトフロー秒75-95）
のときの温度範囲から選び160℃とする。
- 再生骨材加熱温度・・・・・・・・加熱温度による旧アスファルトの劣化を防ぐ目的に
より150℃とする。
- 骨材加熱温度・・・・・・・・混合温度より30℃高くして190℃とする。
- アスファルト加熱温度・・・・・・・・混合温度と同じ160℃とする。
- 初期転圧温度・・・・・・・・転圧温度は再生アスファルトの性状により120±10℃とする。

フォームド混合物の温度管理目標値一覧

混合物の締固め特性

項目	規格値	混合物の種類				
		再生密粒20	再生密粒20 (ECO)			
締固め温度	℃	140℃	140℃	130℃	120℃	110℃
密度	g/cm ³	2.369	2.382	2.377	2.370	2.357
締固め度	%	100.0	100.5	100.3	100.0	99.5
空隙	%	3~6	3.9	3.4	3.6	3.9
安定度	kN	4.90以上	9.50	9.69	9.57	9.49
フロー	1/100cm	20~40	31	32	31	31



温度管理目標値

	低 減 温 度	℃	0	10	20	30
夏季	出 荷 温 度	℃	160±10	150±10	140±10	130±10
	敷 均 温 度	℃	140以上	130以上	120以上	110以上
	初 期 転 圧 温 度	℃	140±10	130±10	120±10	110±10
冬季	出 荷 温 度	℃	160±10	150±10	140±10	130±10
	敷 均 温 度	℃	140以上	130以上	120以上	110以上
	初 期 転 圧 温 度	℃	140±10	130±10	120±10	110±10

※上記の温度管理目標値につきましては、当プラントの推奨する温度であり、規格値ではありませんのでご注意ください。
 ※現場条件（現場までの距離・施工方法・気象条件）等が異なるため、温度範囲につきましては、所定の締固め度が得られる範囲内で、各現場毎に検討して下さい。